

グローバル人材育成推進事業の進捗状況

2019年4月1日
経団連 SDGs 本部

1. 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

日本企業のグローバルな事業活動をリードする人材の育成・支援を行うため、学部生・大学院生の海外留学推進に向けた奨学金事業を2012年度から実施している（実施主体は公益財団法人 経団連国際教育交流財団）。

(1) 事業の概要

- ① 経団連国際教育交流財団からの拠出に加え、経団連主要企業に資金協力を依頼（1社100万円/年）。2018年度は37社からご寄付いただいた。（2019年度については、4月1日現在で、30社が寄付ご承諾済）
- ② 日本の大学生・大学院生が交換留学などで海外の大学に留学する際、一人100万円の奨学金を支給。留学中に自己研鑽や見聞を広め、多様な経験を積むための資金とする。
- ③ 留学開始前に、抱負や課題を奨学生同士で共有するための「課題共有会」を開催（経団連会員企業でグローバルに活躍する若手社員からも、自身の体験に基づくアドバイスをいただいている）。留学期間中は、ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用して、現地での生活やインターンシップの機会などに関する情報提供・助言を実施する。

(2) 奨学生の留学先と進路（2012～2018年度の累計196名）

| 留学先 | 留学・大学卒業後の進路 |
|--|--|
| 北米 80名（ハーバード大学、ジョージタウン大学、カリフォルニア大学、ブリティッシュ・コロンビア大学等） ヨーロッパ 79名（ロンドン大学、パリ政治学院、スイス連邦工科大学、スウェーデン王立工科大学等） アジア 18名（シンガポール国立大学、復旦大学等） オセアニア 14名（オーストラリア国立大学等）など | 日本企業への就職が全体の70%強 主な就職先（社名五十音順）： アサヒビール、キヤノン、商船三井、住友化学、第一生命保険、大和証券、東京ガス、東レ、三井物産、三菱地所、三菱商事、三菱UFJ銀行など |

(3) 2019年度奨学生の募集・選考

46大学より249名の応募があり（学生による自由応募）、書類選考と面接試験を経て36名を選抜した（寄付ご協力企業の人事担当者が選考委員となり2018年11月26日に面接選考会を実施）。36名の内訳は、男性21名・女性15名、文系19名・理系17名。

(4) 課題と今後の対応

- 地方大学や理系学生の応募が比較的に少ないため、募集対象（現在は大都市圏を中心に60大学）を拡大するとともに、大学側への周知を徹底する。
- 専攻を限定した枠の新設（例えば理工系）なども検討する。

2. 合同就職説明会・面接会「経団連グローバルキャリア・ミーティング」の開催

大学生・大学院生が海外留学をためらう理由の一つとして、「留学後の就職活動の難しさ」が挙げられたことを受け、海外留学を終えて帰国した大学4年生・大学院修士2年生、および日本の大学に正規留学外国人留学生を対象とする合同就職説明会・面接会「経団連グローバルキャリア・ミーティング」を2012年より毎年夏に開催している。

(1) 2018年の経団連グローバルキャリア・ミーティング

① 開催日時：2018年7月9日（月）午前10時～午後6時

② 場 所：秋葉原UDX アキバ・スクエア

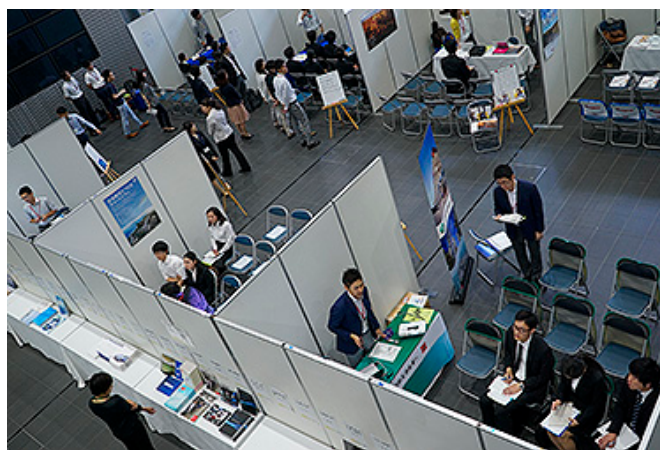
③ 出展企業：経団連会員企業34社・グループ（五十音順）

旭化成、NTT研究所、NTT西日本、NTTデータ、NTTファシリティーズ、NTTコムウェア、荏原製作所、JXTGエネルギー、清水建設、住友化学、住友金属鉱山、住友生命保険、積水化学工業、全日本空輸、双日、損害保険ジャパン日本興亜、第一生命保険、大成建設、東レ、TOTO、日新、日新製鋼、日東紡績、日本政策投資銀行、日本通運、日本生命保険、東日本旅客機鉄道、日立ハイテクノロジーズ、ファミリーマート、富士電機、みずほフィナンシャルグループ、三菱重工業、三菱UFJ銀行、安川電機

④ 参加学生：200名来場（内、外国人留学生57名）



学生ガイダンス



参加企業による説明会の様子

(2) 課題と今後の対応

- 開催時期(7月上中旬)については参加企業の大半が「妥当」と評価しており今後も継続する
- より多くの留学経験者や外国人留学生が参加するよう、大学等に働きかける。

3. 「経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム」

学生にグローバル・ビジネスで働くことへの動機づけをして欲しいとの企業側の意向を踏まえ、企業の実務者によるグローバル・ビジネスの実態に関するモデル・カリキュラムを上智大学、および東京工業大学で実施している。

(1) 上智大学

① 導入講座「グローバル・ビジネスの現状と課題」(2012年度秋季より開講)

| | |
|----------|---|
| 学年・単位 | 大学2年生、3年生の秋季(10月～2月)、2単位(全学共通科目) |
| 人数 | 30名前後(レポート、語学力、成績要件により大学側が選抜) |
| コーディネーター | 上智大学経済学部経営学科 網倉 久永教授、竹之内 秀行教授、小阪准教授 |
| 参加企業 | <ul style="list-style-type: none"> ・2016年度秋季9社(清水建設、新日鉄住金、住友商事、大和証券グループ本社、東京ガス、日立製作所、みずほフィナンシャルグループ、三井住友海上火災保険、三越伊勢丹ホールディングス) ・2017年度秋季9社(味の素、ANAホールディングス、伊藤忠商事、小松製作所、資生堂、積水化学工業、大成建設、パナソニック、三井住友銀行) ・2018年度秋季9社(日本電気、日新、第一三共、野村証券、東京海上日動ホールディングス、清水建設、豊田通商、ダイキン工業、住友化学) |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・ビジネスの現場で働く企業人が講師を務め、グローバル事業の理念や現状、直面している課題等の講義を通じて、学生にグローバル社会で働くことへの動機づけを行うとともに企業がグローバル人材に求める素質、要件を学生に周知する。 ・学生は、講義後、提示される課題に対するレポートを毎回提出の上、グループ討議を行う。最終講義は経団連会館で開催し、企業人講師に対して、学生がグループ毎にプレゼンテーションを行う。 |

② 本講座「グローバル・ビジネスのフロンティア」

(導入講座の履修者を対象に、内容を深掘りした講座を2014年度春季より開講)

| | |
|----------|---|
| 学年・単位 | 大学3年生、4年生の春季(4月～7月)、2単位(全学共通科目) |
| 人数 | 24名(導入講座の履修者を優先し、大学側が選抜) |
| コーディネーター | 上智大学経済学部経営学科 網倉 久永 教授、竹之内 秀行教授、小阪准教授 |
| 参加企業 | <ul style="list-style-type: none"> 2016年度春季3社(富士通、JR東日本、第一生命保険) 2017年度春季3社(ダイキン工業、みずほフィナンシャルグループ、三井不動産) 2018年度春季3社(日本航空、丸紅、千代田化工建設) 2019年度春季3社(キャノン、積水化学工業、双日総合研究所) |
| 概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・企業人による課題提示と現状説明、大学教員による基礎的知識や分析フレームワークに関する講義、参加企業社員も交えた合宿討議(1泊2日)や参加企業訪問(企業担当者インタビュー、関連施設訪問等)を行う。 ・その上で、学生はグループ毎に提示された課題解決に向けた企業に対する提言をとりまとめ、経団連会館で開催される最終講義で発表し、参加企業が講評する。 |



経団連会館における最終講義の様様

③ 「Challenging Frontline Issues in Global Business」

(香港中文大学との国際共同プロジェクト (2017年8月より開講))

| | |
|----------|---|
| 学年・単位 | 大学3年生、4年生の夏季集中講座、2単位 (全学共通科目) |
| 人数 | 10名前後 (導入講座・本講座の履修者を優先し、大学側が選抜) |
| コーディネーター | 上智大学経済学部経営学科 網倉久永教授 |
| 参加企業 | 2017年度 野村ホールディングス 2018年度 全日本空輸 |
| 概要 | 上智大学、香港中文大学の3、4年生 各5名～10名程度が参加し、国、大学を越えたグループを編成した上で、グループ・プロジェクトを通じて、企業の業務内容や経営課題について理解を深めると同時に、チームでの問題解決スキルを養い、英語でのコミュニケーション能力などを向上させることを目的とする (香港および東京にて各一週間実施)。 |

(2) 東京工業大学：グローバルリーダー教育院発展研修プログラム (2014年度より開講)

| | |
|----------|--|
| 対象 | 将来、産業界での活躍を志向する大学院博士後期課程学生 |
| 人数 | 20名～30名 (留学生を含む) |
| コーディネーター | 東京工業大学グローバルリーダー教育院 秋葉重幸 特任教授 |
| 参加企業 | 2016年度：キヤノン 2017年度：三菱重工業 2018年度：三菱電機 2019年度：日本電気 |
| 概要 | 企業人がグローバルなビジネス環境で直面する課題の大枠を提示した後、学生はグループに分かれて具体的な検討テーマを決定する。参加企業社員を交えたグループ討議、企業訪問 (製造現場、研究所等視察と担当者との意見交換) を通じて解決策を検討し、最終講義でグループ毎に発表する。各グループには、留学生1名を必ず含むようにする。 |

(3) 課題と今後の対応

- 理工系や留学生、東工大の場合は女性の参加が少ないので、参加学生の多様化を図る。
- 経済団体と大学の連携による同様のプログラムを東京以外でも実施する可能性について、地方経済団体に働きかける。

4. 高校生の海外留学支援（公益社団法人 UWC日本協会）

（1）事業の概要

UWC (United World Colleges) は、世界から選抜された高校生を世界 17 の国・地域（注 1）にある全寮制のカレッジ（高校）で 2 年間受入れ、国際バカロレア（IB）課程に則った教育を通じて、グローバル人材を育成する国際的な民間教育機関である。経団連は、1972 年よりその日本協会の事務局を務め、会員企業の寄附を原資とする奨学金を支給し、UWC 各校にこれ迄累計で 581 名の高校生を派遣している。

（注 1）カレッジのある国・地域：英国、カナダ、イタリア、米国、シンガポール、ノルウェー、インド、オランダ、コスタリカ、ドイツ、アルメニア、中国、香港、タイ、スワジランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、2017 年 8 月、日本（軽井沢）に UWC ISAK Japan が開校。

（2）2019 年度派遣奨学生

119 名の応募者から、第一次試験（英語、国語、数学、小論文）で 43 名を選抜し、第二次試験（日本語面接、英語面接、グループ討議）を経て 21 名が合格した。英国、米国、カナダ、オランダ、イタリア、ノルウェー、アルメニア、香港、中国、コスタリカ、ドイツの各カレッジに派遣する予定である。

（3）奨学金の原資

経団連会員企業 55 社、および個人会員による年会費（50 万円）・寄附

（4）卒業生の主な進学先・就職状況

| 進学先 | |
|----------------------|-------------------------|
| 国内大学：（これ迄の累計 264 名中） | 海外大学（これ迄の累計：194 名中） |
| 1 位：京都大学 | 1 位：マギール大学 |
| 2 位：慶應義塾大学 | 2 位：L S E |
| 3 位：国際基督教大学 | 3 位：オックスフォード大学 |
| 4 位：東京大学、上智大学 | 4 位：UCL、ケンブリッジ大学、トロント大学 |
| 就職先 | |
| 1 位：大学・研究機関 | 2 位：金融（銀行・証券・生命保険等） |
| 3 位：官公庁 | 4 位：医療サービス（医師、医療機関） |

（5）課題と今後の対応

- 奨学金の原資を確保するため、会員企業の増強を図る。
- 派遣生が首都圏および私立高校出身者に偏っているため、地方出身・公立高校の受験者を増やす。

以 上